

センターだより

NO. 1 1

平成21(2009)年3月10日発行
吹田市立教育センター
大阪府吹田市出口町2-1
TEL 06-6388-1455
FAX 06-6337-5412
メール s-educ@suita.ed.jp

平成20(2008)年度 事業報告

1 調査・研究事業

(1) 研究グループ活動

小学校英語研究G 情報教育研究G 国語力向上 研究G 発達理解研究G
学校事務研究G

平成20年8月28日(木)吹田市教育研究大会で発表・・・のグループ

(2) 教育情報の収集・発信

センターだより(各月号、及び特別号～)・紀要103号(年度未発行)・所報79(年度未発行)
・要覧N016(毎年発行)
教育資料などの充実・活用、検索システムの改善
情報教育用コンテンツの充実(ホームページの利用)

2 教職員研修事業

参加数延べ 4486名

(1) 一般研修講座・・・186講座

ライフステージに合った研修講座

- ・ヤングリーダー養成講座、学校パワーアップ研修講座
- ・新転任者研修・初任者研修・ステップアップ研修
- ・フレッシュ研修(新規採用養護教諭・事務職員・幼稚園教員、新規任用定数内講師)
- ・10年経験者研修
- 教育課題別研修講座
- ・一般研修(危機管理、キャリア教育、教育課程、学力向上、国語力向上、国際理解教育、人権教育、食育)
- ・担当者研修(情報教育、教育相談、人権教育)
- 教科・領域別研修講座
- ・小学校外国語活動(夏期集中研修、授業力アップ研修、英語力アップ研修)
- ・授業づくり研修
- 幼稚園教育研修講座
- 専門職等研修講座
- ・学校事務職員・学校栄養職員・養護教諭・学校図書館担当者
- ・スクールリーダー研修(首席・指導教諭研修)
- 特別支援教育研修 14講座
- ・特別支援学級研修・通常の学級支援研修・通常の学級の事例検討会

参加者総数 526名

(2) 情報教育研修講座 36講座

・情報リテラシー・授業活用・課題・専門・システム管理・情報モラル等の課題別研修

(3) 教育研究大会(全体会、10分科会)のべ参加者数 4084名

3 教育相談事業

教育センターで行う来所相談の内容としては、情緒・行動、学習・発達などに関する相談が依然として増えています。出張教育相談は、全中学校ブロックの小学校29校で隔週1回派遣を実施し、ニーズにこたえてきました。また、不登校児童・生徒支援事業としては「光の森」活動、家庭訪問活動(光の森フレンドの派遣)をとおして、子どもたちの社会的自立のための支援を行うとともに、今年度学習支援を中心とした「学びの森」活動を立ち上げました。

特別支援教育推進事業は、LD・ADHD等、発達障がいの児童・生徒への総合的な教育的支援を目的に実施し、発達相談員を活用し、幼稚園・学校の要請等に応じて巡回相談を行いました。また、特別支援学級研修、通常の学級支援研修、通常の学級の事例検討会など通じて、各校・園における特別支援教育の推進のため支援の他、保護者支援のためのペアレントトレーニングを実施するとともに、保護者啓発のための講演会も実施しました。

4 進路選択支援事業

5 情報教育関係

(1) SATSUKI ネット運用・活用

学校ホームページの管理更新

教職員へのID、メールアドレスの配付による運用

「校務なび」による学校間連絡体制

サーバーセンターを中心としたセキュリティ確保の一元化 等

(2) 情報教育推進委員会 6回開催

(3) 学校教育情報通信ネットワーク構築事業

(4) 情報教育研修の実施

6 教育改革推進奨励補助金(小・中学校54団体への支援)

事業別総括

情報教育

平成20年度の情報教育研修は情報リテラシー研修を14講座、授業活用研修を13講座、課題別研修を8講座、システム管理研修を1講座の計36講座実施しました。受講者数は延べ526人となっています。本年度はまとまった時間を確保するため、研修の時期が夏休みに集中しました。来年度も少しでも参加していただきやすい時期・会場を考え、研修の充実を図りたいと思います。

「教育の情報化」を進めるためには、コンピュータやネットワークの整備といったICT環境の充実のほか、教員のICT活用指導力の向上、ソフトウェア・コンテンツの整備と活用、校務の情報化を推進する必要があります。

また、情報社会の進展により、携帯電話やインターネットの利用が急速に進む中、子どもたちがトラブルに巻き込まれる事件や、携帯電話のメールやインターネットの掲示板によるいじめなど新たな問題が発生しています。個人情報の漏洩、データの紛失や盗難といった問題も後を絶ちません。そこで、情報モラル教育を推進するための情報モラル指導力の育成、情報セキュリティ意識の向上が重要となってきます。

これらの現状を踏まえ、センターにおける研修を進めるとともに、各校におかれましても、ICTサポート等の活用による校内研修や、研修で学ばれた先生方による学習会を推進していただけたらと考えています。

特別支援教育



1. 校・園内教育相談体制の確立

発達障がいへの理解が進むとともに、校内委員会などの会議の持ち方や特別支援教育コーディネーターの校内での役割が検討されてきました。現在は、入園・入学の時期から、子どもを丁寧に理解し、必要な支援を行うシステムが実践されつつあります。保護者からの申し入れを受けるとともに、担任の気づきからどのように支援につなげるかをさらに検討したいと思います。子どもの課題が顕在化する前に、早期の気づき、未然の対応が求められています。

2. 巡回相談の実施

巡回コーディネーター8名、発達相談員、教育相談員、センター所員が、ケースまたは学校の要請に応じて巡回相談を行いました。訪問した学校・園は348(H19年は343)校・園(延べ)、対象園児児童生徒は758(同693)人(延べ)、校内研修は20(同32)回です(平成20年2月末現在)。校内研修は減ったものの、訪問校等は増加しています。今後も校内委員会(事例検討)でご活用いただければと思います。

3. 特別支援教育研修

教職員対象の「通常の学級支援研修」を全7回、「事例研修(学習、行動)」を各3回、特別支援学級研修を1回実施しました。全参加者数は558人となりました。本年度からコーディネーターに限らず、全ての先生に参加していただけるよう計画しました。

4. 保護者の理解・啓発研修、高校への広がり

保護者啓発研修として、大阪おたふく会代表笠井恵美氏にご講演をいただき(3月2日)、ペアレントトレーニング 期7名、 期7名で理解研修を実施しました。保護者から好評をいただいています。これらの理解・啓発研修は、発達障がいの内容理解にとどまらず、保護者同士の情報交流、悩みの相談的な面も見られるようになりました。

不登校児童生徒支援事業(「光の森」・家庭訪問・「学びの森」活動)

今年度の「光の森」活動には、小学生2名、中学生21名が入会し、活動に参加しました。4月当初からの見学者は19名でそのうち入会にいたったのは10名でした。また、家庭訪問活動は、計12名でした。

大きな出来事として、今まで活動場所であった野外活動センターの再整備に伴い、長年お世話になった「青年の家」が取り壊されることになりました。そのため、1月より活動場所を竹見台多目的施設に移し活動しています。事務所の方や「学びの森」や施設を利用している他団体の好意にも恵まれ、最初は活動場所が変わることに不安そうだった子どもたちもすぐに慣れ、今は全員が揃って元気に活動しています。

入会に至る流れは、見学の次の日から体験が始まります。通常の「光の森」のゆったりした活動にすぐに慣れて1ヶ月ほどで入会にいたる子どももいます。しかし、昼夜逆転して生活リズムがもどらない、不登校期間が長いために人への緊張が高いなどで、週に1~2回来るのがやっとという子どもも多く、体験初期は少しずつなじめるようスモールステップで課題を設定します。

「学びの森」活動は今年度より始まった事業で、中学生7名が入会し、5名が体験中です。自分を表現したり、友達とのつながりを苦手とする生徒が多く、スタッフが個別に学習支援をしています。体験的な活動としては、事務所の方と施設前の畑で芋掘りをした後カレーを作ったり、1階にある幼児施設で保育のお手伝いをさせていただいたり、施設と一緒にいる他団体の方々にお世話になりながら実施しています。その他、気分転換にピアノを弾いたり、フレンドさんやスタッフとお喋りしたりしながら、子どもたち個々の状態に合った居場所作りを今年は目指しました。また保護者や学校、スクールカウンセラーや教育センターの相談員とも連携しながら子どもの状態を把握することにも努めてきました。

子どもの心に何がおきているのかしっかり見極め、保護者や学校と連携しながら課題を共有し、子どもへ粘り強く働きかけ、子どもが社会復帰できるよう支援をしていこうと考えています。

平成20年度 教職員研修のまとめ

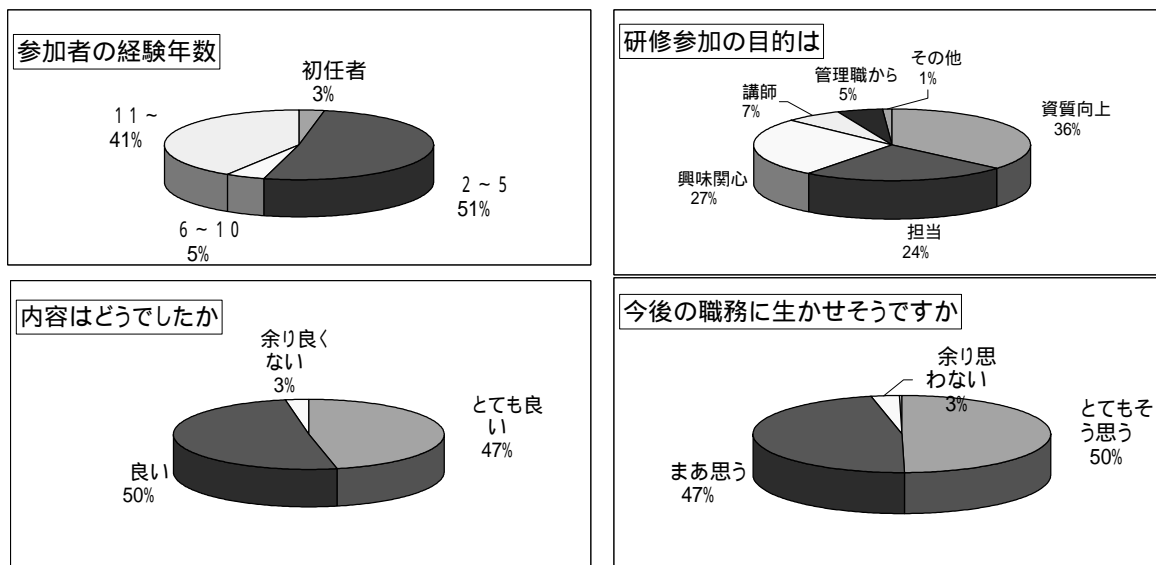
平成20年度は、この数年間に見込まれる教職員の世代交代の問題、学力実態調査の結果から見てきた吹田市の子どもの学力に関する課題や新学習指導要領実施に向けての準備などに重点を置き、合計186の研修講座を実施し、のべ4486人の参加をいただきました。

平成18年度より実施している研修アンケートも、今年度は回収率が76%となり、多くの方々からのご意見・ご感想をいただくことができました。研修参加者からいただいたアンケートの結果の一部を紹介いたします。

平成20年度研修講座と参加者数(2月末現在) 全講座数 186回 参加者数 4486人

	研修講座名	講座数	参加者数	研修講座名	講座数	参加者数
ライフステージにあつた研修に	初任者研修・新転任者研修	21	932	教育課題別研修	15	694
	フレッシュ研修	26	138	教科・領域別研修	21	547
	ステップアップ研修	17	443	専門職等研修	13	326
	ヤングリーダー研修	6	65	幼稚園教育研修	2	91
	学校パワーアップ研修	8	106	特別支援教育研修	14	558
	10年経験者研修	7	60	情報教育実技研修	36	526

全体結果概要(集計 79講座 集計人数 1795人 回収率 76%) <初任研・10年研を除く>



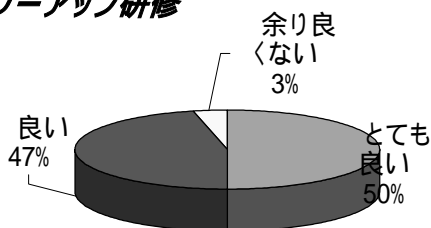
研修参加の動機としては、「資質向上のため」が一番多く、次いで「担当であるから」「興味関心」となっています。参加者の教職経験年数では、ステップアップ研修・ヤングリーダー研修の充実により、2年目～5年目の方の研修参加の割合が高くなっています。また、97%の方から「研修内容を今後の職務に生かせそうだ」と回答をいただいています。是非、教育センターの研修で深められたことを各学校での実践に生かし、成果を共有していただきたいと思います。

どの研修講座も、研修内容について好評価をいただきました。研修時期・研修時間については、学期中の16:00～17:15の研修では、時間が短いなかなか研修に参加しにくいなどの意見もいただきました。今後も、じっくり時間をかけて行う研修は、夏季休業中に実施できるように工夫していきたいと思えます。自由記述欄からも多くの感想や意見をいただきました。いただいた貴重な意見を参考にさせて頂きながら、次年度の研修計画を立てていきたいと考えています。

講座別結果（「内容はどうか？」に対する回答）

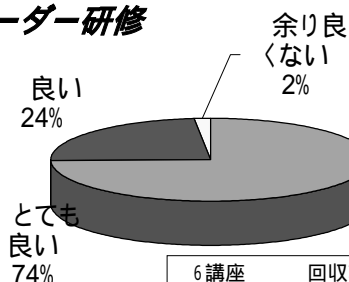
集計講座数 回収率

学校パワーアップ研修



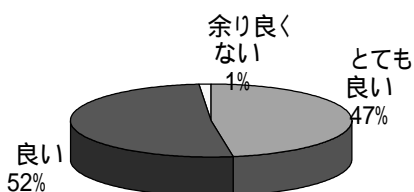
8講座 回収率 91%

ヤングリーダー研修



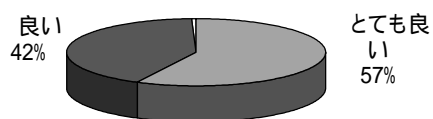
6講座 回収率 100%

初任者研修



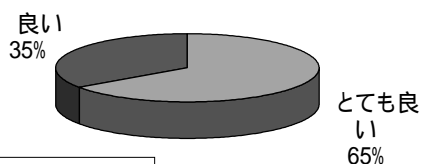
3講座 回収率 100%

ステップアップ研修



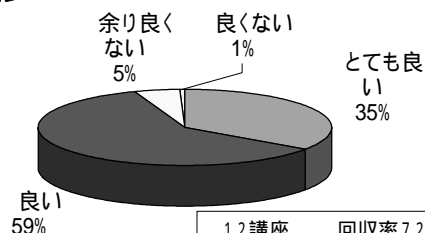
17講座 回収率 96%

10年経験者研修



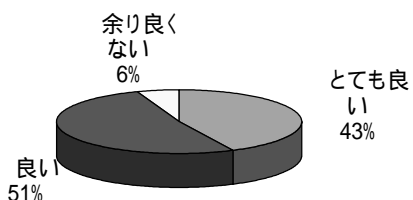
7講座 回収率 100%

課題別研修



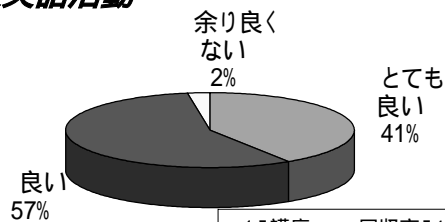
12講座 回収率 72%

特別支援教育研修



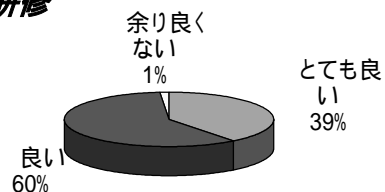
6講座 回収率 58.8%

小学校英語活動



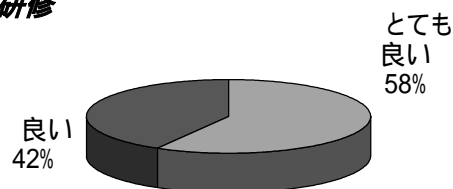
17講座 回収率 74.3%

専門職等研修



9講座 回収率 75.8%

授業づくり研修



2講座 回収率 39%